

10分×3回 実践「ボトルキャップ回収運動是非」 学大附世田谷中 河野 晃
資料はZOOM内チャット配布（スマホでは「詳細」ボタン等→チャット）

都中理ポスターセッション 実践報告

「ボトルキャップ回収運動 の是非を考える」

東京学芸大学附属世田谷中学校
河野 晃

1 本授業のきっかけとねらい

- ▶ 環境に優しい(とされる)運動は多く見かけられる。
- ▶ 10年ほど前から、ボトルキャップ回収運動(以下、回収運動)が行われている。
- ▶ 生徒会活動やPTAなどで取り組んでいる学校も見かける。
- ▶ 回収日に合わせ、普段はPET飲料を飲まない家庭が、PET飲料を購入してキャップ回収に協力した、という話を複数聞いた。
- ▶ 環境問題解決からは本末転倒、活動をする事自体が目的となっていないか。
- ▶ 中学3年理科の最後の単元、「自然と人間」、回収運動を題材、クリティカル・シンキング(批判的思考)ができるようになる第一歩の授業を目指した。

2 授業の流れ（1時間完結）コロナ対応45分

ノートプリント配付別紙

導入：事前の意識調査 5分

→回収運動を知っているか、参加したことはあるのかアンケート

展開1：・回収運動概略を知る 10分

→回収運動実績報告、NPO WEBを元に概略説明（肯定的視点のみ）

・批判を考える 10分

→回収活動にどのような問題点（批判）があるか考え、記入

資料配付別紙（批判的視点も含め）

展開2：・主な批判等を知る 10分

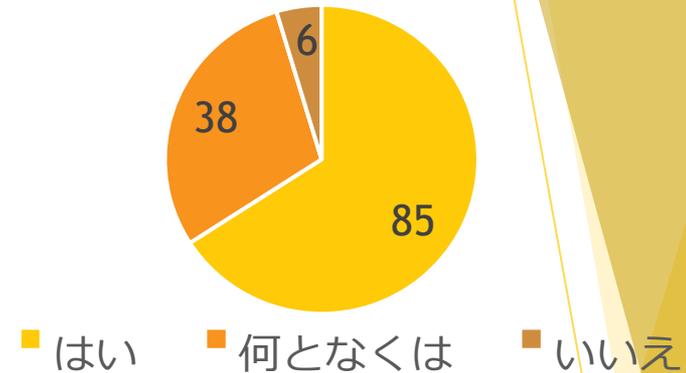
→Wikipediaや時事ニュースから

・事後の意識調査、考え記入 10分

3 アンケート結果と考察

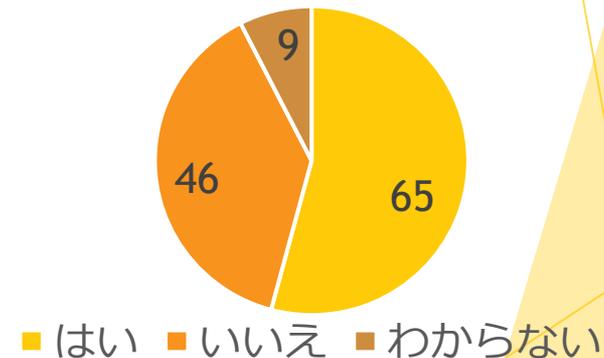
n = 129 数字は（人）

Q1：あなたはこうした取り組みを知っていましたか



Q2：参加（回収）したことはありますか

（Q1「はい」、「何となくは」対象）



Q1、2より、ほとんどの生徒はこの取り組みを知っており、過半数は回収に協力等していた

3 アンケート結果と考察

Q3 資料提示前

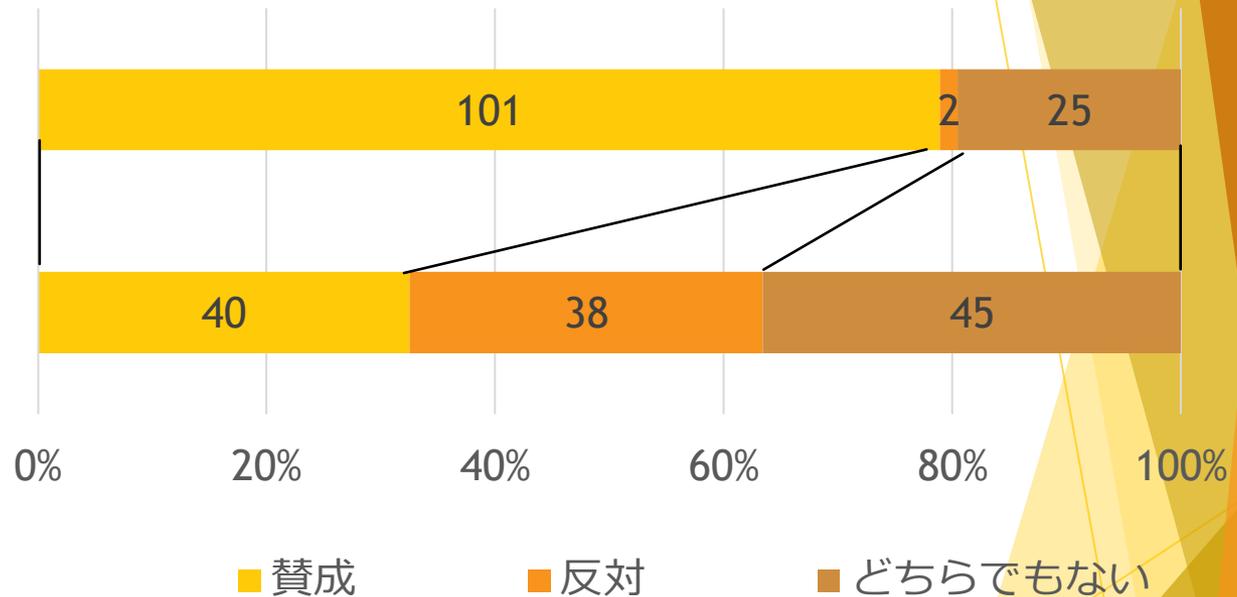
あなたは回収運動についてどう思う

Q3前

Q4 資料提示後

本学習も参考に運動についてどう思う

Q4後



Q3 とQ4 の前後の変容や以下の自由記述から、最初からこの運動の仕組みや意義を深く考えて参加していたというよりも、「環境にやさしそう」という雰囲気だけで参加していたことが考えられる。

3 アンケート結果と考察

資料提示前 生徒自由記述 抜粋

「回収運動について、どのような批判が考えられますか」

- ▶ ・NPOなどがきちんとお金を扱っているか
- ▶ ・キャップが無駄なくリサイクルされているか
- ▶ ・キャップを回収した人にメリットがない
- ▶ ・集めるのが面倒
- ▶ ・衛生的にワクチンがつかれるのか ※後述

⇒リサイクルそのものに関する内容はほとんどなく、
その周辺の話題が多い印象

3 アンケート結果と考察

資料提示後 生徒自由記述 抜粋 「取り組みについて考えてみましょう」

- ▶ ・回収したキャップを運ぶのに使うエネルギーがキャップそのものを新たに作るので消費されるエネルギーよりも大きいとすると、エネルギー問題としては意味が無いことをやっていることになると思う。
- ▶ ・目的をもち良いことをしようとすることは大切だけど、良いことをした気になりたいがために現実から目を背けたりその気持ちを利用するのはおかしいと思う。
- ▶ ・人件費などの資料や環境と言った現状をみると、やはり賛成とは言えない。しかし一人一人の「キャップをリサイクルしよう」といった意識は地球にとってとてもよいことだと思う。だからよいともわるいとも、どちらともいえない。
- ▶ ・何でもリサイクルすればいいと思っていたけれど、リサイクルすることでエネルギーを使う事があるとか、二酸化炭素が発生することを知ってびっくりした。

⇒エネルギー総量や「やりがい」「思い」とのバランスの視点、増加

⇒今まで知らなかったことに気がついた、という記入も多かった

4 授業の様子、授業雑感

- ▶ 今回初めての授業。主体的に考え、取り組むのか不安も。
- ▶ 回収運動を知っていた生徒も多く、自身の経験に照らし合わせながら考えていた生徒が多く見られた。
- ▶ コロナ禍での授業であったため、対話活動は行えなかった。賛否について異なる立場の生徒を組ませ、ディベートも行ってみたいかった。
- ▶ プラスチックとの関連は意識しないでいった。PP（キャップ）やPET（本体）、PS（ラベル）について参考に触れてもよかったか。
- ▶ 想定外、ボトルキャップそのものがワクチンに変化すると考えている生徒が少なからずいた。自由記述「衛生的にワクチンがつかれるのか」
⇒環境への取り組みが多い反面、中身はよく理解されていないことも多いのでは。
- ▶ 全体の成果、身近な取り組みを学習内容を使って考える大切さに気がついた生徒がいたこと。
- ▶ 今後も「自然と人間」の単元、身近な生活に関わる問題を3年間の学習を活かして考える授業を。

説明はここまでです。お聞きいただきありがとうございます。

- ▶ 今からお気軽に質問をどうぞ！
- ▶ 感想もお待ちしています！

kounoaki@gmail.com からでもどうぞ！

「にしきの理科準備室」 <https://www.i-mate.ne.jp/nisiki/>
⇒ 「理科準備室」で検索上位に出てきます。

東京学芸大学附属世田谷中学校 河野 晃